



11月の健康コラム

低 温 熱 傷

低温熱傷とは

低温熱源に長時間直接さらされることにより発症する状態をいいます。

通常の高温熱傷は、皮膚の表面で起こりますが、**低温熱傷は皮下脂肪まで達することにより起こります。**

接触部の温度が、44℃の場合、約6～10時間で受傷します。熱源の温度が上昇するに従い、受傷までの時間が短くなります。

温度と接触時間

44度	6時間以上
45度	3時間以上
46度	1時間30分以上
47度	45分以上
48度	23分以上
～51度	温度が1度上がる毎に時間が半分

極端に熱源の接触時間が長いため、発赤や水疱形成だけに見えても深部に深い損傷を負っていることが多い。

睡眠時には痛みに気付かないため深達性Ⅱ度（DDB）まで達し、さらに進行して深度Ⅲ度（DB）まで達することが稀にあります。

熱傷深度

深度	障害組織	外見	症状	治療期間	瘢痕
I度 (EB: epidermal burn)	表皮・角質層まで	発赤、充血	痛み、熱感	数日	残らない
浅達性Ⅱ度 (SDB: superficial dermal burn)	表皮・有棘層、基底層まで	水泡、発赤、腫れ、湿潤	強い痛み、灼熱感、知覚鈍麻	約10日間	ほぼ残らない
深達性Ⅱ度 (DDB: deep dermal burn)	真皮・乳頭層、乳頭下層まで	浅達性Ⅱ度とほぼ同じだが、やや白くなる	浅達性Ⅱ度とほぼ同じだが、知覚鈍麻が著しい	2週以上	残る可能性有
Ⅲ度 (DB: deep burn)	真皮全層、皮下組織、極度の場合 は骨まで	白や茶色などに变色、ひどく焼けただれる、乾燥、壊死、場合により炭化	無痛、感覚なし	1カ月以上	ケロイドなどになり残る

重症になりやすい低温熱傷

低温熱傷は極端に熱源の接触時間が長いため、発赤や水疱形成だけに見えても深部に損傷を負っていることが多い。睡眠時は痛み気付かないため深達性Ⅱ度まで傷を負い、さらに進行性に深くなりⅢ度まで達することもある。皮膚の血流量より脂肪層の血流量が少なく、皮膚層が冷やされて軽症に見えても脂肪層では血流により冷却されない。



応急処置

患部を早急に冷やすこと。流水で冷やし続けることが望ましい。15分ぐらい冷やしたら、直ちに医療機関を受診して下さい。自己判断での治療はやめてください（アロエ、ジャガイモ等）。



- 服は脱がずに、そのまま水かける。
無理に脱がすと、皮膚が剥がれます。
- 水疱は破らないように！
感染をおこしやすくなる。
- 乳幼児や老人は低体温になる可能性があるため、冷やしすぎないように。

低温熱傷の予防

- ・ 冬の暖房器具（こたつ、湯たんぽ、カイロ、ストーブ、ホットカーペット等）が、長時間、直接身体の同一箇所に接触しないようにすること。

